

# Interview 口腔は健康といのちに直結 「口はいのちの入り口、こころの出口」



略歴  
1970年9月26日愛知県名古屋生まれ。1989年北海道立苫小牧東高等学校卒業。1993年実践女子大学文学部卒業、サッポロビール入社。2004年早稲田大学大学院経済学研究科修了。2005年・2009年武蔵野市選挙区で都議会議員選挙に当選。2013年・2017年都議選に再挑戦も次点で惜敗。2017年9月市民の声を受け武蔵野市長選に挑戦し10月4日当選。2021年10月武蔵野市長選に立候補し当選。2期目に入り、現在に至る。

## 武蔵野市長 松下 玲子 氏 (まつした・れいこ)

- ### 緊急課題と重点政策
- **コロナ禍から命と暮らしを守るまち**  
感染症対策の要である保健所の武蔵野・三浦地域での復活を都に求めます。
  - **子ども子育て応援宣言のまち**  
子どもの権利条例を制定し、子どもたちの相談窓口を充実させます。
  - **ひとりでも安心して暮らせるまち**  
在宅療養を支援し、24時間・365日、いつでも必要な医療と介護が受けられるようにします。  
働く場・地域活動・スポーツ環境の充実で、健康長寿を推進します。
  - **脱原発、脱炭素、緑あふれるまち**  
気候市民会議を設置して、気候危機打開武蔵野市民活動プランを作ります。
  - **災害に備える安心・安全なまち**  
安全が確認され住民の理解が得られるまで外環道工事再開を認めません。  
耐震や耐風害、前水害の防災対策を強化し、安全なまちをつくります。
  - **多様性を認め合い、平和と文化を育むまち**  
武蔵野市パートナーシップ制度を条例化して、すべてのひとの権利が守られ、互いに尊重しあえるまちを目指します。  
武蔵野市平和の日制定10周年を記念し、平和の大切さを広く発信します。
  - **より進んだ市民参加に挑戦するまち**  
武蔵野市自治基本条例に基づき、常設型住民投票制度を確立します。
  - **個性がやがやと魅力と活力のあるまち**  
まちの中で人や事業者をつなぎ、産業をさらに振興させます。
  - **健全財政を市民のために活かすまち**  
すべての世代の市民の居場所となるような、武蔵野公会堂のリニューアルを市民参加で検討します。

インタビューについてのご感想・ご意見等は、[info@tokyo-sk.com](mailto:info@tokyo-sk.com)へお寄せください。  
過去のインタビューは当協会HPからご覧いただけます。



「今年10月の武蔵野市長選挙では、市民の熱い支持を受け2回目の当選をおめでとうございます。まず市政、特に新型コロナウイルスと感染症対策を中心にお聞かせください。」

「コロナ禍対策ですが、政策を大きく分けて考えています。1つは感染症の対策、いま一つはコロナ禍から発生する経済的な対策です。この2つに分けて約1年9ヶ月間、取り組んできました。また、保健所がない武蔵野市が直面した問題の解決も必要でした。」

「1つ目の感染症としての対策ですが、昨年のコロナ発生当初は、発熱が3日間続かないとPCR検査は受けられませんでした。これは、PCR検査実施の可否を決める保健所が武蔵野市内にはないことが原因です。私はこれを大きな問題と捉え、2020年5月に武蔵野市独自の「PCR検査センター」を立ち上げました。市内医療機関の駐車場にドライブスルー方式のPCR検査センターを設置し、武蔵野市医師会の先生方に順番に入っていたり、不安を抱える市民が速やかに検査を受けられる体制を整えました。」

「さらに、市内の医療機関でのスムーズな検査につながるため、医療機関に対して独自の補助を実施し、1日あたり約500件の検査ができる仕組みを構築しました。このPCR検査センターは、各医療機関での検査体制充実により、2021年2月に初期の役割を達成したことから業務を終了させ、市のホームページから武蔵野市医師会のホームページにリンクを貼った「PCR検査可能医療機関の案内」について「コロナ」で医療機関名を確認できる仕組みに切り替えました。」

「また、コロナワクチン接種に際しては、武蔵野市は高齢化率が低いため、都からのワクチン送付め、都内の自治体の第4グループになりました。5月上旬からワクチンが届き始めたことに合わせて、集団接種と個別接種の両面から進めました。当初は予約が取りづらく、インターネットのシステムもアクセスが集中してダウンするなど、運営には困難が伴いました。その後、スムーズに予約が取れるようになったにもかかわらず、今度はワクチン供給量が激減し、確保できない事態になりました。」

## 生きる全市民公平性の観点

「いま一本の柱、経済対策の内容と特色について。経済的な対策は、事業者への支援策として国や東京都のほか、武蔵野市独自の「武蔵野市中小企業者等特別支援金」を実施しており、市内の歯科診療所でもご利用できます。さらに、国・東京都の様々な支援制度があり、その活用や戸惑う事業者のための電話相談窓口「ほっとらいん」も設けました。」

「また、都市計画税も減税し、その額は約12億円で、そのほか、今年3月には額面5000円の「くらし地域応援券」を発行し、市民1人当たり10枚を配布しました。参加店舗は市内の1400店で、各店舗は受け取った応援券を銀行で換金できます。応援券の期限は9月、その趣意は、暮らした地域を応援し、明るい話題を広めようというものです。利用市内限定で、1000円につき半額分の500円を使える仕組みです。お買い物、お食事、さらには医療機関での診療費窓口負担払い、薬局での薬代にも利用できます。試算した経済効果は約15億円です。今年度も、2022年の2月から3月までの2カ月間で実施する予定で、5000円増額し、5500円にします。全市民の公平性の観点から、前回も今回もデジタル方式ではなくアナログ方式、つまり紙で対応し、各家庭に郵送します。」

## 今求められる「公共」を問う

日本の近代文学や白樺派の歴史を振り返り、語る上で欠かすことができない地、それは武蔵野市である。櫛、楓などがうっそうと生い茂る武蔵野の雑木林には、国木田独歩をはじめ多くの文人が遺遊（じようぶ）し、また療養のためにこの地を選んだ。翻って現在では、多数の著名な漫画家の在住の地、ゆかりの地としても知られている。多岐文化的な色彩を醸し出す武蔵野市であるが、1980年に福祉公社を設立し、これを拠点に、全国で初となる「契約による有償の福祉サービス」の提供という福祉制度を構築。独自の、頼れる親族のいない高齢者を支援する「武蔵野方式」を導入させた。また、2021年からは18歳までの子ども医療費無償化を実現した。

今回ご紹介するのはこの武蔵野市の市長で、去る10月の市長選で他の候補者の追跡（つじよ）を許さず当選し、2期目の就任を果たした松下玲子氏だ。

インタビュー当日、松下氏は聞き手の話を十分に聞き取り、まず結論を先に話し、その後背景や理由などを自身の経験を織り交ぜて話す。その内容は、よく考え抜かれたもののため、保留はなく、動きはなく、どこか聞き役に徹する母性的な姿勢。実施に移す際の判断と決断に垣間見える父性的な姿勢。その両面が選挙の場では有権者を捉え、また、市政に携わる市議会議員や市職員との口づきのやり取り、さらには、自身の日常の中でも発揮されているのではないかと。

インタビューでは、武蔵野市長選挙に立候補した時の経緯や動機、「コロナ禍にあつての市政への取り組み」を中心に伺った。聞き手は早坂美都理事。

## 保健所は命を守る大事な砦

「保健所の存在がクローズアップされましたが、もう少し詳しく教えてください。」

「武蔵野市には保健所がないため、まず独自に2021年2月から「自宅療養者支援窓口」を立ち上げました。この事業は、都内では国立市に次いで2番目です。自宅療養中に起こる事例が社会問題化し始めたのは今年の8月なので、その約半年前に立ち上げたことになりました。8月には、21世紀のこの現代に、東京都内でも誰にも気づかれず、自宅療養中に21名の方が亡くなっていたのです。最初は、自宅療養を余儀なくされたという方々に、市を連絡するよう呼びかけを実施し、食品やお届け物、お食事、さらには医療機関での診療費窓口負担払い、薬局での薬代にも利用できました。試算した経済効果は約15億円です。今年度も、2022年の2月から3月までの2カ月間で実施する予定で、5000円増額し、5500円にします。全市民の公平性の観点から、前回も今回もデジタル方式ではなくアナログ方式、つまり紙で対応し、各家庭に郵送します。」

「次に、都議会議員、そして武蔵野市長を目指した動機などについて。」

「実は、私は元々、政治家や議員になろうとは思っていませんでした。会社員時代、社会保障制度に関心を持ち、社会を辞めて大学院に進み、労働経済学と社会学を学びました。社会保障政策を学びました。社会保険制度について勉強するうちに人事コンサルタントになりました。思い、松下政経塾に進み、政治と経済と経営について学んでいました。その研修中に武蔵野市で都議会議員（1人区）の選挙への出馬の声がかかり、お話を聞いてから市内を歩き、市民の話を聞いていくうちに「この街で挑戦してみたい」と感じ、2005年、当時の民主党政権で立候補し、初当選しました。今から16年前のことです。」

「その後、2009年の都議選でも当選し、2期目を迎えました。その間、結婚して妊娠し、2008年に出産して母となりました。子どもは現在、中学1年生です。」

「しかし、忘れもしない2013年の都議選、774票差で落選となりました。2017年の都議選も落選。家族は、都議選に2回落選したら、その後は機能を拡充しました。実は、保健所は、以前は武蔵野市にもありませんでしたが、統廃合が進んだ結果、武蔵野市が東京最多層級中保健所の所管となりました。この保健所は、所管地域の人口100万人をカバーする都内最大の規模で、都内各地の保健所業務が逼迫していた今年2～9月には、武蔵野市の職員1名を派遣し業務支援にあたりました。しかし10月、11月は感染数も自宅療養者も0となる日も増えており、この時にこそ課題を確認し、今後に備えるべきと考えています。私は、保健所は命を守る最後の砦、命を守るセーフティネットの役割を担う大事な砦だと考えています。その価値、真価は費用対効果のみでは測れません。」

## 18歳までの子ども医療費無償化

「一次に、都議会議員、そして武蔵野市長を目指した動機などについて。」

「実は、私は元々、政治家や議員になろうとは思っていませんでした。会社員時代、社会保障制度に関心を持ち、社会を辞めて大学院に進み、労働経済学と社会学を学びました。社会保障政策を学びました。社会保険制度について勉強するうちに人事コンサルタントになりました。思い、松下政経塾に進み、政治と経済と経営について学んでいました。その研修中に武蔵野市で都議会議員（1人区）の選挙への出馬の声がかかり、お話を聞いてから市内を歩き、市民の話を聞いていくうちに「この街で挑戦してみたい」と感じ、2005年、当時の民主党政権で立候補し、初当選しました。今から16年前のことです。」

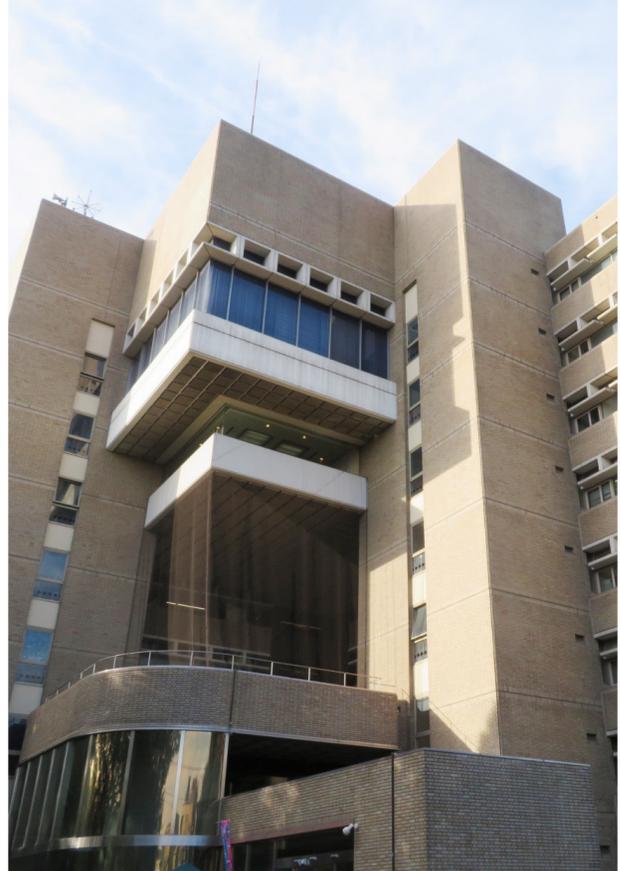
「その後、2009年の都議選でも当選し、2期目を迎えました。その間、結婚して妊娠し、2008年に出産して母となりました。子どもは現在、中学1年生です。」

「しかし、忘れもしない2013年の都議選、774票差で落選となりました。2017年の都議選も落選。家族は、都議選に2回落選したら、その後は機能を拡充しました。実は、保健所は、以前は武蔵野市にもありませんでしたが、統廃合が進んだ結果、武蔵野市が東京最多層級中保健所の所管となりました。この保健所は、所管地域の人口100万人をカバーする都内最大の規模で、都内各地の保健所業務が逼迫していた今年2～9月には、武蔵野市の職員1名を派遣し業務支援にあたりました。しかし10月、11月は感染数も自宅療養者も0となる日も増えており、この時にこそ課題を確認し、今後に備えるべきと考えています。私は、保健所は命を守る最後の砦、命を守るセーフティネットの役割を担う大事な砦だと考えています。その価値、真価は費用対効果のみでは測れません。」

## 食べることは「命をつくる」こと

「ところで、高齢者支援や子育て支援のお話が出てきました。歯科医療、歯科医師について、お話しください。」

「私は、食べるのが大好きです。命を創る要素はいろいろありますが、「食」については、非常に敏感が過ぎます。特に、妊娠中にそれまでと考えが変わって、自分が食べているのがお腹の赤ちゃんを育み、赤ちゃんと、歯の細胞を創っています。そのため、毎日の食料や調味料の選択には非常に気を遣っています。私は、やせやけやたら、後は結果を受け入れることにしています。やるだけやってみよう、心が辛くなると思います。落選したわたくしは、4年間、食を続け、長生きしたいと思ったり、歯の健康は本当に大事だと思っていました。そのような姿勢のためか、私は、あまりストレスはあがりません。――本日はお話しありがとうございました。」



武蔵野市は家計支援と地域経済の振興を目的に一人あたり5千円のくらし地域応援券を発行し、さらに経済状況の悪化を踏まえ都市計画税の減税を実施など、迅速なコロナ支援を行った